

五十三駅

滑稽膝栗毛道中図会



ごじゅうさんつぎこっけいひざくりげどうちゅうずえ 一猿斎国升 画 綿屋喜兵衛 版 請求記号: Su30 寸法: 50×71 cm

翻刻凡例

- ・各コマの宿場名の上に「一」で江戸からの順番を付した。
- ・破損等のため判読不可能な箇所及び不確かな箇所は、「一」で示した。
- ・清濁及び文字遣いは原本通りとし、改行はできるとき再行した。
- ・異体字及び旧字体は、現行標準字体に改めて表記した。

※本作品には作成された時代背景により、現代では一部不適切と思われる表現が含まれております。あらかじめご了承ください。



ふりだし 神田八丁堀
 女「こりやいもひちさん
 なにかとおせは
 さまでござ
 いまし
 たヨ
 ほり ヤ」ときにしうぎは
 すみやしたが右
 のぢさんさんは
 どふたねいも七さん
 よろしくおたのみもうし
 やす
 いも七
 「おつと
 ちだがこん
 やはまに
 あはねへあ
 すはとつて
 すぐと
 もつて
 よこす
 から
 とちめんや弥次郎兵衛こんれいの所
 「なんでもこんや中に十
 五両の金がなくては
 大しく
 じり
 だか
 弥次さん
 どふしてくれ
 るのだイヨ
 こいつは大へんた

【一】品川

「コウ弥次さんなにもかも
ぶちうつて
こうしてでた
ところは
とふも
いゝじやねへか
ヤ「そうヨ八丁ぼりのいへても
一けんの内だもの夫ア
いせさんくう
から上がたまで
けんぶつ
ぐらへの
ろぎんはたくさん
だはナなんとどう中
は十ぶんに
しやれるつも
りだからいゝかね
サアあるきなせへ

【二】川さき

北「あねさんどぶだ
おれが
たのみを
いてくれるきは
ねへかね
女「こんたはばか
けた人さね
ヲホ、いゝく
ヤ「ふくかしてくんせへ
おめへちとはとけへ
いくのた
おれらと
一しよに
とまるは
とふたナ

【三】かな川

「てめへらはおう
しうのうまれかね
おれも
なからく
あつちから
もんたから
みなよく
しつて
いらアナ
「これやちさんよしなせへおめへ
さつきからあいつらにかつかれて
もちことられていらアナ

【四】ほどがや

「そうしては
いけねエ
ふるしきか
もけて
てか
やふれる
はア
はなせく
「とまりたくてもきさま
らのつらみてはめしか
いらねエ」

【五】泊とつか

「そいつアありかてへ北八
とふた
いろおと
こはかく
へつた
ろう
「コウほんく
いつてはモウ
おやこの
しやれも
やめたヨ
せかれちつと
はなしか
あるから
とつちへ
なと
いてうせろ

【七】平つか

「そうだくたんなに
かついてもらつて
てめへのるかいは
「たんな三百のかを百五十
ならてめへかつかいていくといつたから
まげやせうサア百五十たしてかた
ほうかつき
なさい
ヤ
「又大しくしりだ
こいつはまつひらたく

【六】藤さは

「なにつめたいから今
ぬくめたいときに
つけしつみのひか
ついたのてあり
ませうに
やけ「ぬこたア
こさいません
「アつゝあつゝいゝ
こいつはたいかんたユウ
はアさんこのたんこは
とう
したんた
口のなか
ひになる
あつゝく
アつゝく
「こいつは
おかしい
アは
く
く

【八】大いそ

「そこてしつかりへのてないやうにきはりなせへ
よしかね
「とふた
くつと
もち
あけて
これでも
上らねへの
虎「か石



【九】泊 小田原

北「ヤア、ふろのそこ
かぬけて大へんく
いたいくく
あついくく
ヤ「こいつはおかしいけたを
はいてふろへはいつたと
見へるは、、、、、コア
命にや
べつしやう
なしサ
ていしゆ
「これはく、とんだ
ことするお客
さんたヨ

【十】はこね

ヤ「これはきめう
北「ほうかむりすれはい、男
見へるといふからな、い、みして
おもひつかす
つもりた
女「ヲやく、アノ
人は、ち
ちう
ふん
としかむ
ほし
りしヨ
女「ヲホ、い、ね
おかし
女「ヲほ、、、

【十一】三しま

「それ
しや
モウ
こ、から
江とへ
ねへるしや
「ヤア、く、コリヤ
とふしやうちかへの
中はみないしたサア、
大へんく、コリヤ夕部
一しよにとまつた
十吉めか
こまのはい
にちかへねへ
サア、く、
ていしゆを
よへく

【十二】泊 ぬまづ

「ア、いたいく
とふして
くれる
のた
ア、い
いた
かねはとられるあたまは
こわされ
おらは
モウ、
しにたい
くらたい
ア、いた
く、
このつ
はつめ
やろうめきを
つける
エイさつさ
く、く、

【十六】ゆ井

「エ、くさいくく
ヤ「コレそんな上だん
してはいけねへ
ア、くさいくく
「ハイたのみますくく

【十五】泊 かん原

「ヤア、くく
さいたいくく
さがす物
をとつた
上つた
たア
ば、
「コラみな
にかいへきて
くがさいとろ
ぼんがきて
どこのおつちたヨ
サア、く、あかり
つげさすせへく

【十四】よし原

「このくわしんはいくらた一ツか三文かそんなら五ツくたから
三五六文はらふそイ、カ
「三文つ、五ツ
ならへていかつ
しやい
「ゑらいめに
あわし
おつた



【十三】はら

ハイどふそ
御こうりよくに
おこ、るもちを
ねかいます
「いやモウつちらもゆふへ
こまのはいにろきんとら
れて一文なしさとふそ
こちらへ
ねかい升



【十七】おきつ
 ヤ「なんだな豆のこかと
 おもつたらコリヤ
 ぬかだエ、ケー、
 むねがわるくて
 いけ
 ねエ
 北「それみねエだんごは
 よしねといつたに
 きかぬからヨ

【十八】えじり
 「このやらうめこんなもの
 をひとにぶつ、けてそれ
 てすむかへりやうけん
 ならぬいばか
 やらうめ
 ヤ「ヤア、
 まつひら
 ぐめん
 ぐめん

【十九】泊 ふちう
 北「コウわけへ
 しゆひとつ
 のみな
 せへ
 「ハイ
 ぐ
 ぐ
 「いさ川さん
 どふだね
 「だんなハイごめん
 なさいひとつ
 めし上り
 ませ

【二十】まりこ
 ヤ「このおふくめ
 どふしや
 「こい
 つハ
 おもくろ
 八、八、
 「ぶつなら
 ふつてみやがれ

【二十四】かなや
 「あいぼヨ
 これてかるくて
 いつそ
 い、ね
 あれを
 みさつせ
 ヤ
 「いたいく
 こいたいく
 のせおつかごに
 すまねへぞ
 ぐ
 ぐ
 ぬけて
 いたねへ
 ぐ
 ぐ
 「とんだことだ

【二十三】しまだ
 北
 「サアはやくゆき
 なせへおめへ
 いわねへでも
 い、
 むたくちを
 といつたから
 あつくなるのサ
 サア、
 「この「やろうめ」
 「をれ
 ヤイ
 ヤ「こいつは
 へんちき
 たごめん
 さつせい
 ぐ

御問屋

【二十二】藤ゑだ
 ざとう
 「どこのやろうか
 めくらとおもつて
 人をたしぬきヤ
 がったかはりだ
 コリや
 どんぶり
 こ
 ハ、
 「ゑ、
 たさま

【二十一】おかべ
 「ヤレコラ
 すべら
 したつら
 きたどく
 だ
 ヤ「コラ、
 いたいく
 ぐ
 ぐ
 エ、
 ははが
 たは
 アハ、
 ぐ

【二十五】日坂

みこ
「せきとふも一へんだけ
まいつたなりで今は
へいつたのいしかけと
なつて犬に小へん
かけられたり向て
水ひとつた向て
くれたことにはない
ほんにほんない
じにすればいい
くなくか
ごさるて
「もつともた
「そのとふりだ
「なくナ
は、く
「もつともた
くく
かなしいく

【三十二】白須賀

「コウ
あうい
ほさ
さき
きの
せのは
とふした
「このかこのりかけに
「そか」
「ここかき」
「のまして
やるとハいつかふた
ゑらいはくく

【三十一】あら井

「わしどもは
北くから
江とまでも
とうちうに
「わらじは「もく
ですむがなん
とゑらいもん
じやないかな
「それはまだ道中が
すけなうござい升
侍
「それはどうした
あるきやうじやナ
ヤ
「ヘイそのかはり
きやはんか大そう
いりましたう
侍
「ハイのウなぜだ
ヤ
「まいにちむまにのり
つめでこさいま「すよ
アハ、くく

【二十六】かけ川

「こいつは
こちそうた
のめるとはめうく
アノさとふも
さきに川へ
はめをつた
いしゆかへしに
さけをのんて
やるとはきめうた
「ナニおれはいまついたのた
ヤア、く
またとくりの
さけもないそ
くく
「てめへ今ついで
くればさけかモフて
ないはさへのんて
しまつたナ

【三十】まひ坂

「こいつは
まし
つつけい
「ヤへひはなか
してよいか
かたなも
ひとつたに
なかし
とはし
おもし
「のり合人
「かたな
さてはたけみつたヨアハ、くく



【二十七】袋井

「ヤア、く水たまりへ
すへりこんで
おきられねエ
しつめてくんせへ
ヤア、くく
「コレ、まこはとふしたんたや、
こいつア大へんた
はやくにけるくく

【二十八】泊みつけ

「ハア、くたれそきてくんさい
「おとろしやの
とふしたくく
かつた
すつた
ほんか
出たのた
大へんた
「ヤア、いたくく
「コリヤすつほんがくつついた
たれそきてくれくく

【二十九】はま松

「ヤアゆるしてくたされ
「わつちらはなにも
うらみをうけるはつはねへなむあみた
くく
よなをし
くく
「くわはら
くく

【三十三】 ふた川
 「このやろうめかつハ
 かこへとそくてゆきあたり
 おつたすまねへそく
 いまふちはなす
 かくこせへ
 きなれ
 きつて
 きつて
 みるなら
 みろ
 たけみつ
 たろう
 はかめ
 「やぢさんうち
 やつておき
 なせへ
 そら
 おたちたハ

【四十】 なるみ
 「やぢさんモフよしなさいこゝな
 あるじはせうぎて
 うつ
 だから
 はじまら
 ねエ
 ヤ
 「これハいくらだナ
 ていしゆ
 「ヘイそれでござい
 出すかこうつと
 あんたのおつ
 にはきんくは
 ないはづじや
 どうしても
 まけは
 せんテ
 ヤ
 「そんなら
 これは
 いくらた

【三十四】 泊 よし田
 「ヤア
 おそろ
 しや
 ヤ
 「どふして
 くれるのたいてへくく

【三十九】 ちりう
 ヤ「このぞうり一そくが
 十八文といつたかすこし大
 十人から大のほうを十一文
 があるから七文にや
 小の方を七文にや
 まけなせへすりや
 そのでこの七文
 のほうを
 のさいやす
 のサツ



【三十五】 ごゆ
 「コレはナよく
 おねたはつねだ
 みエおきつねだ
 ねはつては「か
 ぶつては「か
 ねへてへ
 いてへ
 いか
 ヤ
 「なんだ
 どきつねめ
 おもやかと
 かつて
 北人にはけ
 まるもすさ
 そんないで
 さいくのだやねへ
 サアどうだく

【三十八】 おかさき
 北「此もち
 どちか
 三文かね
 女「さよじや
 「こちらは
 やすいたげへから
 やすいたげへから
 三文のほうを
 四文のほうを
 かいかせう
 そかのかせう
 二文のまけなせへ
 そこのまけなせへ
 ここのまけなせへ
 五ツのまけなせへ
 やすか
 アハ、
 ハ、
 ハ、
 く



【三十七】 泊 ふぢ川
 「この人はたまげた
 やろうじやこちの
 むすめをもち
 かいせうとおもは
 づいせうとおもは
 ですまるかそのふん
 北「ヤア
 きげへ
 とはし
 なんだ
 ゆるせく

【三十六】 あか坂
 「やぢさんモフいかげんに
 とつとくんなんひとがきよう
 してみつて
 とむつて
 はねへ
 はな
 「ハンくくくく

【四十八】坂の下
 「あらい
 おとしや
 こりやいつ
 とふしたんしや
 マア
 むすめは
 めか
 もふた
 アア
 むらいことになつた
 サア
 そうと
 しや
 「ウン引
 フウ
 「ヤアしまった
 はしこかこけるヨ
 たすけて
 「アいたタ、、

【四十一】泊 みや
 北
 「あんまさんどうだおど
 りはうめへもんだろ
 サアへうしをとりなせへ
 とりのうたに
 うまくあふだるう
 よい
 「こいつは
 ヤ
 おかしい
 「こせ
 「さすて
 ひくてにわし
 やどこまでも
 なみのうきねの
 「かちまくら
 よい
 コリヤサ
 ハリヤサ
 コリヤサ

【四十七】泊 せき
 「イヤ大へん
 これたからよしなといつたんた
 イヨウまつひら
 こめんなせへ
 「そら
 こけたヨ
 「うそ
 「たれた
 いたいた

【四十二】くわな
 ヤ
 「アツはやく
 北
 たすけて
 はまのうき
 はらのうちか
 アツ、ころけて
 アツ、なる
 がきん
 アツ、なる
 「こいつは
 北
 「はいん
 アハ、
 「はやく
 おたつて
 おびても
 おときなさい
 ヲホ、
 やき蛤

【四十六】かめ山
 「うそきみ
 わるくて
 いけねエ
 ソラ
 きたそ
 「はやく
 にける

【四十三】四日市
 「こんとは三百文
 かけてこの二十
 まんちうは
 くとふて
 とふて
 ごさり升
 「そいついき
 やせう
 そのかわりに
 くわなけら
 三百とまん
 ちう代は
 そつちから
 たして
 もらふそ
 よしか
 「やちさん
 こいつアおほつかねへヨ
 慢頭

【四十五】せうの
 「ハイさよならよくにあい
 ます
 「こらとふたさつはりくひかまはらねへ
 やちさんそのたはこいれとつてくんな
 「こいつアきめうた
 アハ、



【四十四】泊 石やくし
 「北八かヤレ
 おそろしや
 このおくにしひとか
 いら
 にはやく
 「やちさんかはやくきてくんせへ
 このたなかおちているから
 とふもしかたかねへモフ
 てかぬけるやうた

